

令和 7（2025）年度関西医科大学大学院看護学研究科

博士後期課程

入学試験問題 夏期

看護共通

- 問題 1 質的研究におけるデータ収集法のひとつである観察法について、その種類と特徴を述べなさい。さらに、観察法においてできる限りバイアスを避けるための注意点を述べなさい。
- 問題 2 質的研究におけるデータ収集法としての面接／インタビューにおいて、バイアスを避ける方法について、説明しなさい。
- 問題 3 観察研究と介入研究の概要について、それぞれ具体例を挙げて説明しなさい。
- 問題 4 狭義の利益相反には、「個人の利益相反」と「組織の利益相反」があります。
「個人の利益相反」について説明しなさい。
- 問題 5 ベルモント・レポートで、人を対象とする研究を行う上で遵守すべき基本的倫理原則を 3 つあげなさい。また自律性の要素を 2 つ示し、説明しなさい。

令和 7 年度（2025） 関西医科大学大学院看護学研究科
博士後期課程 入学試験問題 夏期 看護共通
出題の意図および解答例

問題 1

【出題の意図】

質的研究の方法や注意点についての知識を問う。

【解答例】

参与観察と非参与観察の 2 つをあげ、それぞれの観察バイアスについて記述する。観察者バイアスを避けるため透明性の担保に努める。

問題 2

【出題の意図】

インタビューにおけるバイアスを避ける方法についての知識を問う。

【解答例】

観察者の選定バイアスを避けるため公募によるリクルート、設問順によるバイアスを避けるため一般的な質問の後に具体的、センシティブな質問に移る、被験者バイアスを避けるため間接的な聞き方をするなどの質問の工夫をするなど。

問題 3

【出題の意図】

観察研究と介入研究についての知識を問う。

【解答例】

観察研究：健康関連の情報やある疾患に対して従来行っている治療の効果などについて、情報を収集して観察する研究方法。研究対象者に対して意図的な介入は行わず、広範な情報を集めて観察するもので、横断研究、コホート研究、ケース・コントロール研究（後ろ向き研究）などがある。介入研究：健康にかかわる事象とその要因との関連を検討する分析疫学の研究方法の 1 つ。ある疾患が起こる要因を仮説に基づいて実験的に加えたり除いたりすることにより、その因果関係に基づき、新たに考え出された治療プログラムや予防プログラムを用いて、その有効性について評価する。

問題 4

【出題の意図】

個人の利益相反についての知識を問う。

【解答例】

個人の利益相反とは優先的に遂行すべき職務がありながら、それとは別に経済的利益を含む何らかの利益を個人的に得ていて、第3者に懸念を持たれかねない状態をいう。どのような関係を利益相反とみなすかは、公的資金提供機関、学協会、研究機関、学術雑誌がそれぞれルールを定めている。

問題 5

【出題の意図】

倫理原則についての知識を問う。

【解答例】

人格の尊重、善行、正義（公正性）、自律とは、情報を理解し処理する判断能力と他人によるコントロールや影響下になく自由である自発性がある。